FLEAIマーケット
～エコチャリティー 2011～

ボランティア

地域交流

代表者：人文学部　３年　仲村　百恵

連携先

㈲森田屋縫製（茨城県指定障害者就労継続支援事業者）・NHK水戸放送局・FMぱるるん・水戸市内地域情報誌メディア・大学周辺近隣店舗・水戸市内の保育園、幼稚園、小、中、高、大学

顧問教員

後　藤　玲　子　（人文学部　准教授）
小　阪　玄次郎　（人文学部　専任講師）

参加者

仲　村　百　恵　（人文学部　3年）
坂　門　茉　美　（人文学部　3年）
小野村　奈　々　（人文学部　3年）
大　井　麻　衣　（人文学部　3年）
中　山　聡　巳　（人文学部　3年）
登　坂　直　矢　（人文学部　3年）
町　井　智　美　（人文学部　3年）
川　崎　亜　純　（人文学部　3年）
田　村　博　志　（人文学部　3年）
藤　地　綾　香　（人文学部　3年）
藤　枝　友　里　（人文学部　3年）
石　川　康　平　（人文学部　3年）
立　花　将　人　（人文学部　3年）
芳　賀　愛　美　（人文学部　3年）
南　　智　文　（人文学部　3年）
鳴　島　和　希　（人文学部　4年）
小　松　万　純　（人文学部　4年）
古　西　立　志　（人文学部　4年）
緑　川　郁　夫　（人文学部　4年）
小　圷　久美子　（人文学部　4年）
佐　川　美　樹　（人文学部　4年）
近　藤　綾　香　（人文学部　4年）

プロジェクトの申請内容

●プロジェクトの概要

目的：学生と地域住民の交流活性化
参加者のエコ意識の向上
チャリティーを通した社会貢献

目標：水戸キャンパスにて、①フリーマーケット　②廃油からつくるエコキャンドル　③エコクイズスタンプラリー　④森田屋縫製とのエコワークショップと３つのブースを伴う大規模イベントを開催することで、地域の人々とのFLEAI（ふれあい）や、エコ意識の向上、そして東日本大震災へのチャリティー活動を実現する企画である。

●実施計画

５月～７月：FLEAIメンバー結成　イベント内容決定、キャンドル試作品作り、開催日決定
８月：出店者呼びかけ、地域への広告準備・実行、フリマ・各イベント準備
９月、10月：イベント準備、開催

●期待される効果

一昨年、昨年と1000人以上の方々の来客数から、今年も大多数の来客が望める。フリーマー

ケットの出店者である学生と交流することで、オープンキャンパスとはまた違った“茨城大学の雰囲気”を感じてもらえるだろう。そして、茨城大学が地域住民とのよい交流の場となる効果が期待できる。さらに、端切れ布で作るエコバック作り、不要なものを活用したエコキャンドル製作、エコクイズに答えていくスタンプラリーを通じて、エコ意識の向上と節電対策のきっかけの場となり得る。

また、学生に出店してもらうことで、学生発信の新規イベントが誕生する土壌として、「学生地域参画プロジェクト」の認知度を高めることができる。そして、昨年同様「モッタイナイSTATION」を運営本部に設置し、フリーマーケットで売れ残った商品を集めリサイクル業者に換金、被災地に寄付するという社会貢献活動を行う。そのことにより、フリーマーケットに参加してくれた方々も震災復興支援に参加する形になり、茨城大学から学生・地域住民全体の社会貢献ができる。

プロジェクトの実施概要

●主な活動内容

①学生フリーマーケット	学生が出店者となり、参加者である地域住民の方々と交流を図る。
②エコワークショップ	森田屋縫製工場の協力の下、端切れからコサージュやエコバッグを作る。
③エコキャンドル作り	廃油からキャンドルが出来る事を体験してもらう。
④エコクイズスタンプラリー	エコ知識を楽しく身につけてもらうため、エコクイズに答えながらスタンプラリーを実施。正解に応じてもらえる景品がかわる仕組み。

これらの４つのイベントブースを通じて、目的である①学生と地域住民の交流活性化、②エコ知識の向上、③チャリティーを通した社会貢献を達成する。

プロジェクトの成果報告

当日は雨天にも関わらず、地域住民を中心におよそ1100人の方々にご来場いただいた。年齢層は年配の方から子供たちまで幅広く、「親子ともに楽しめるようなイベントでとても楽しかった」「是非来年も来たい」という声をいただけた。

●４つの成果

◇地域住民との交流

＜エコキャンドル作り＞

キャンドル作りを目的として参加した方も多く、お昼頃には材料が全てなくなってしまうほどの盛況ぶりであった。

＜エコスタンプラリー＞

来場した子供たちが競い合いながらクイズを解き、実行委員に「リサイクルとリデュースって何が違うの」と聞くなど、交流を図っている場面が多々見受けられた。

＜フリーマーケット＞

手作り商品の作り方を参加者が聞くなど、学生と地域住民の方々が楽しそうに交流している様子がうかがえた。

＜エコサージュ作り＞

エコサージュ作りも大盛況で途中材料が品切れになってしまうほどであった。とりわけ大人の方々が多く楽しんでいた。

フリーマーケット会場内の様子

◇エコ意識の向上

イベント終了後、出店者にアンケートをとったところ、24組中21組がエコ意識向上のきっかけにつながったと回答した。また、エコキャンドル作りに参加した子供たちからは、「廃油がキャンドルになるなんて知らなかった！家でもう一回作りたい」との声。実際にリユース体験することによりエコをより身近に感じ、関心を持つきっかけ作りに貢献できた。

◇社会貢献

事前に学生や地域住民の方々から不用品を預かり、イベント当日実行委員会で本部フリマを設置。また、売れ残った商品を出店者から回収し、リサイクル業者を通して換金する「モッタイナイSTATION」を行った。本部フリマの売上金と「モッタイナイSTATION」の換金額の合計20,060円を茨城県災害対策本部へ義援金として寄付することができた。さらに、エコクイズスタンプラリーの景品を震災復興グッツである「がんばっぺ茨城」(売り上げの３割が義援金となるグッツ）にすることによって、参加者も震災復興に貢献できた。

◇在学生への波及効果

小学生・幼稚園生など家族連れの来場が多かったのを見て、「自分もイベントでこのようによりたくさんの地域住民の人と交流できるようなイベントを開催したい、広報活動をどのようにやったのか」といった問い合わせがあった。学生が大学と地域の連携を図りたいという意思を強めることができた。

その他エコイベントの様子

●広報活動

◇学内

認知度を高めるための広報活動を行った。

・30講義以上の出張プレゼン
・お昼休憩時間に６回のビラ配布
・全学部棟に告知ポスターを設置
・ブログを設置し、イベント情報提供
・SNSによるイベント告知
・学友会メールを通じた告知

◇学外

徹底的にメディアを取り込んだ広報活動を実施。

・水戸市内の各学校へポスター 30枚、チラシ１万枚を配布、設置。
・茨城大学周辺店舗20件にポスター設置
・ポスティング1000枚
・読売タウンニュース、SAKUEASAKU、茨城朝日にてイベント告知
・Machicoにてイベント特集記事掲載
・マチコ新聞にてイベント記事1面掲載
・FMぱるるんにてラジオ告知
・NHK水戸放送局「お知らせ隊」にて生放送宣伝
・ブログにてイベント情報配信（毎日更新）
・Twitterにてイベント生実況
・Facebook やMixiにて情報配信

●参加者より

「地域の人々や学年の違う人たちとたくさん触れ合えて楽しかったです。また参加したいです！」（出店者）

「廃油からキャンドルが作れるなんて知らなかった。家に帰ってからまた試してみたい！とても楽しかったです。来年の開催を楽しみにしています。」（地域住民の方）

●今年得られたこと

◇1200人と過去最高の参加者

来場者数とフリーマーケットの参加者である学生を合わせて1200人が参加。これはFLEAIマーケット過去最高の数字で、地域交流に向けて大きく貢献できた。

◇チャリティー活動で社会貢献

2011年３月11日の東日本大震災に向けて、復興支援となる要素をイベントに盛り込むことで、社会に大きく貢献できた。

◇メディアを広く活用して連携強化

今年はメディアの幅を広げ、テレビやSNSなどネットを使った広報活動にも取り組んだ。テレビ出演によって、視聴者からの問い合わせや、ブログの読者からの反応もあり、地域の人々への認知度を上げ地域連携を強化することができた。

●今後の展望

今後もFLEAIマーケットを毎年企画とすることで、学生と地域の交流をより深めていく。また、エコという大切なことを常に忘れない意識を提供し続ける。そして、連携企業を増やしていくことでより幅広く地域連携ができるようにしていきたい。

連携先の森田屋縫製とスタッフ